

User Report

ユーザーレポート

～0の証明～

トラック

■ 日本フレートライナー株式会社

確実な点呼執行は、安全を担保するための“生命線”。 信頼できる機器の導入により、その精度が高まりました。

一連の法令改正により、点呼の執行・記録・保存において厳格な運用が求められるようになった今、運送業各社は点呼をどのようにとらえ、体制の再構築を図っているでしょうか。今回はJR貨物グループの一翼を担う、日本フレートライナー株式会社様にその取り組みを伺いました。

ご利用機器

IT点呼システム

Tenko-PRO

パソコン連動記録型測定器

ALC-PROII

プリンター一体型測定器

ALC-miniIII

法令への対応を
きっかけに
運転手の意識が変化
=ALC-miniIII



安全を担保する
確実な点呼
=Tenko-PRO導入



多面的な
安全教育展開へ

選定ポイント

安全対策を怠る者は、安全対策に泣く。
精度の高さが必須条件でした

高橋氏：当社が東海電子の機器を導入するきっかけは、やはりアルコール検知器使用の義務化。当時、物流技術管理士資格取得のため講習会に参加していたのですが、そこで出会った同業受講者からの評価が高く、すぐにHPから問合せをしました。ただ、社内では費用対効果の観点から、様々な議論が交わされたのも事実です、安価なものも確かにありますから。

しかし、「安全対策を怠る者は、安全対策に泣く」。だから、絶対的とも言える精度の高さが必須条件と考えました。それがなければ、取引先からの信用はもちろん、運行管理者とドライバーとの信頼関係さえ損ないかねません。

現在、トラックを持つ全国14拠点と本社にALC-miniIIIを導入していますが、正確なアルコールチェックが可能になったことに加え、「時間と量を決めてお酒を飲む」、中には「自費で簡易型機器を購入し、念のため出勤前に確認する」ドライバーも出現するなど、現場サイドの意識も変化してきているようです。そして、こうした変化が社内での認知・高評価を生み、Tenko-PROの検討・導入へとつながっていききました。



取材後記 トラックと鉄道を組み合わせたハイブリッド型輸送システムの担い手として、全国に事業展開する日本フレートライナー株式会社。同社の社是は「親和協働」。安全面はもちろん、点呼者と被点呼者双方の信頼関係深化にもALC-miniIII、Tenko-PROは役立てられている。



理想の点呼とは 基本は対話。そこに機械を介在させ
“うっかり忘れ”や“馴れ合い”を排除

高橋氏：点呼は単なる“確認”ではなく、安全を担保するための“生命線”。執行、記録、保存のいずれも、すべて標準化されていることが理想と言えます。その根本は、もちろん人対人の対話ですが、それだけだと、“うっかり忘れ”や“馴れ合い”といったマイナス要素が入り込んできます。その不確実性を排除するために、敢えて機械を介在させ、ヒューマンエラーを未然に防ごう...と。2012年8月に導入し、東京自動車営業所(南千住)を親、東京支所(品川)を子とした一対一の環境で運用を開始しました。

Tenko-PROは、あらかじめ10項目の点呼内容を設定でき、一つひとつ確認・操作しないと次に進むことができません。また、記録簿はもちろん、点呼中の画像や動画も残せますから、確実性がいっそう増すわけです。

コストパフォーマンスも、運行管理者を置くことに比べれば、決して高くはないと感じています。メンテナンス面でも、機械自体が期日前にアラームで教えてくれますので、作業的な負担は少ないですね。

これらの機器導入を契機に、本社管理部門が積極的に現場とかかわり合いを持ち、その中でいかに安全教育を徹底するかが今のテーマです。運転手への教育に加え、運行管理者の教育も充実させること。その一環として、積極的な外部講習会の活用にも取り組んでいます。

山本五十六の「やってみて、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」という言葉を、運行管理者として常に頭の片隅に置いていきます。現場を支えるのが管理部門の役割。身の引き締る想いです。

取材ご協力

日本フレートライナー株式会社

自動車部 高橋 健 様

〒140-0003
東京都品川区八潮3-3-2 2
東京貨物ターミナル駅本屋5F
TEL 03-3799-6723 FAX 03-3799-6524

